

MISA SHIN GALLERY

1-2-7 Shirokane, Minato-ku, Tokyo 108-0072 JAPAN

tel:+81-(0)3-6450-2334 fax:+81-(0)3-6450-2335

www.misashin.com info@misashin.com

プレスリリース
2013年9月

東松照明 TOMATSU Shomei アフガニスタン1963

会期：2013年9月19日（木）－11月2日（土）

オープニングレセプション：2013年9月19日（木）18:00－20:00

開廊時間：火-土（日月祝休）12:00－19:00

MISA SHIN GALLERYでは東松照明の
展覧会「アフガニスタン1963」を開催
いたします。

東松照明（1930年-2012年）は、米軍
基地や、長崎、沖縄など社会的な対象
をテーマとし、戦後の日本を見つめ続
けた日本を代表する写真家の一人です。
本展覧会では、東松が1963年にアフガ
ニスタンを旅して撮影した写真のモノ
クロデジタルプリント14点で構成され
ます。

1963年8月、東松は平凡社発行の雑誌
「太陽」の特派員として、アフガニス
タンを訪れます。白く乾いた大地、強
烈な太陽の陽射し、定住地を持たない
遊牧民の暮らし、バザールに集まる
人々、チャドリを被った女性たち－初
めてのアフガニスタン、初めての海外
は、32歳の東松にとって新鮮な驚きの
連続でした。



東松照明 アフガニスタン 1963年／2009年

この旅で撮影された200点あまりの写真は、アフガニスタンが戦争に巻き込まれる以前の人々の暮らしや文化です。その時撮影された作品は1968年「アツサラーム・アレイクン（あなたの上に安らぎがありますように）」として自費出版され、その後、1978年「泥の王国」（朝日ソノラマ刊）として上梓されています。

MISA SHIN GALLERY

1-2-7 Shirokane, Minato-ku, Tokyo 108-0072 JAPAN
tel:+81-(0)3-6450-2334 fax:+81-(0)3-6450-2335
www.misashin.com info@misashin.com

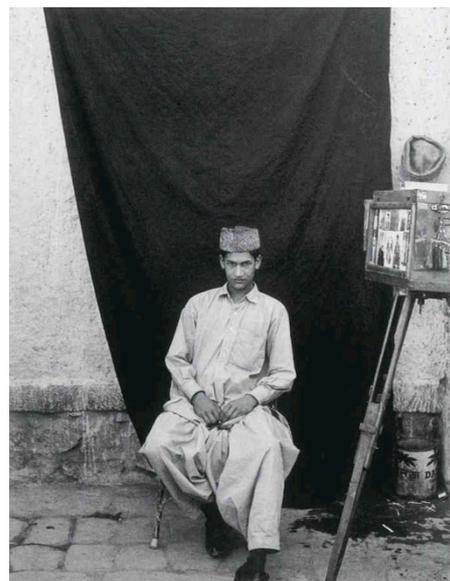
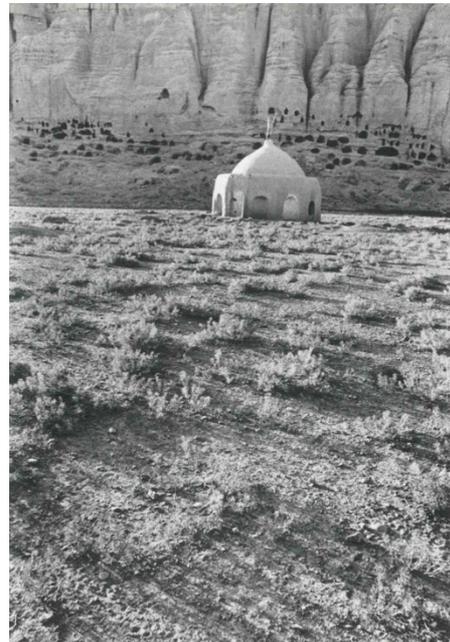
若き東松が切り取った、過酷な自然のなかで生きるアフガニスタンの人々の暮らしを映し出した写真は、エキゾチックな文化に対する物珍しさやロマンチックな視線ではなく、対象に自己を置くことで対象の本質に迫ろうとする写真家の行為そのものが表現されています。そして、それらの写真は、その後の新宿や沖縄、東南アジアの写真において一貫して現れることになる、現代社会への鋭い問いかけの視線であることに気がきます。

谷川晃一は、「泥の王国」の序文に寄せて、「このアフガニスタンの写真には、その後、東松の代表的な作品『太陽の鉛筆』（1975年刊）シリーズで確信的なものとなった文明批評すなわち、辺境の地から戦後の文明社会を逆照射してみるという方法意識の萌芽をすでに見ることができる。」と述べています。

これらアフガニスタンで撮影された写真は、50年の時が経った今も驚くべき新鮮さをたたえた作品となって私たちのもとに届けられます。東松が生涯を通じて求めた精神の原点を見ることができる本展を、是非この機会にご高覧ください。

東松 照明（とうまつ しょうめい）

1930年-2012年。戦後の日本を代表する写真家。愛知大学経済学部を卒業後上京し、岩波写真文庫でカメラスタッフを経て、フリーランスとなる。1950年代から数々の作品を発表し、近年の写真家に多大な影響を与えた。「Shomei Tomatsu: Skin of the Nation」サンフランシスコ近代美術館（2004年）、「東松照明：Tokyo 曼陀羅」東京都写真美術館（2007年）、「時を削る」長崎県美術館（2010年）、写真家：東松照明全仕事」名古屋市美術館（2011年）、「Shomei Tomatsu: Island Life」シカゴ美術館（2013年）などの個展が国内外で開催されている。



(上) アフガニスタン1963年／2009年
(下) アフガニスタン1963年／2009年

お問い合わせ：info@misashin.com tel:03-6450-2334